編集後記

平成二十七年四月二十四日、研究所研究員の辞令伝達以来、十一月と十二月に、三回の公開研究発表会を開催した。その後、わずかな期間しかなかったが、各研究員の研究成果を研究論文・研究ノート・研究報告（研究の進捗状況や研究の方向性、問題意識など）という形で提出して頂き、『共生文化研究』創刊号を刊行する運びとなった。まだ生まれたばかりの乳児である。大方の暖かいご指導ご鞭撻なくして成長していくことは困難である。関係者のご理解を切にお願いしたい。

今回の収録に当たっては、研究員の各自の専門性を基本として、共生思想の基本となる仏教経典・論書の解釈や現代語訳、実態調査、過去の実践、事例研究、東海学園大学の学祖と仰ぐ椎尾弁匡師についての論考など、また分野的にみても、仏教に限らず社会・労働・福祉・ジェンダー・生命倫理など、多岐に亘っている。このことは同時に、共生があらゆる分野で扱われていることと深く関連している証でもある。

今後の方向性としては、個人研究の更なる深化に併せて、統一テーマによる学際的な研究が展開されなければならないと考えている。

共生が取り上げられる背景には様々な社会の不条理や人間のあり方への反省が強く求められているからである。二十一世紀は「共生の時代」と言われながらも、その未来像は具体的に描けていないのが現代社会である。こうした問題解決に向けて共生文化研究所の活動によってなにがしかの貢献が出来れば望外の幸せである。その第一歩を踏み出したばかりである。

共生文化研究所長：神谷正義